

人形浄瑠璃

文楽

二〇二一年三月地方公演

【主催】文楽協会 【後援】文化庁 【助成】芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



昼の部
二人三番叟
撰州合邦辻
合邦住家の段



夜の部
本朝廿四孝
十種香の段
奥庭狐火の段
榎茂都陸平 振付
釣女

2021年3月 地方公演チケットお問い合わせ先

3月4日(木) 戸畑市民会館(福岡県北九州市).....093-562-2655

6日(土) 関市文化会館(岐阜県関市).....0575-24-2525

7日(日) 藤沢市民会館(神奈川県藤沢市).....0466-28-1135

14日(日) 宇都宮市文化会館(栃木県宇都宮市).....028-634-6244

15日(月) 高崎芸術劇場スタジオシアター(群馬県高崎市)・027-321-3900

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、公演を中止する場合がございます。



芸術文化振興基金助成事業

©青木信二

二〇二二年三月地方公演 配役表

昼の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 織太夫

二人三番叟

(人形役割)

豊	竹	靖太夫	三番	豊	吉田	玉	翔
豊	竹	咲寿太夫	三番	豊	吉田	玉	誉
竹	本	碩太夫	三番	豊	吉田	玉	誉
野	澤	勝平					
野	澤	寛太郎					
野	澤	錦吾					
鶴	澤	燕二郎					

摂州合邦辻

合邦住家の段

(人形役割)

中	竹	本	南都太夫	合邦道心	吉田	玉	也
切	鶴	澤	清丈	合邦女房	吉田	文	昇
後	竹	本	織太夫	玉手御前	吉田	和	生
	竹	澤	宗助	奴入平	吉田	玉	勢
				浅香姫	吉田	一	輔
				高安俊徳丸	吉田	玉	佳
				講中	大	ぜ	い

唯子 望月太明蔵社中

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 小住太夫

本朝廿四孝

十種香の段

(人形役割)

竹	本	千歳太夫	花造り養作 <small>武田勝頼</small>	吉田	玉	男	
豊	澤	富助	腰元濡衣	吉田	清五郎		
			八重垣姫	吉田	箕二郎		
奥庭狐火の段	豊	竹	靖太夫	長尾謙信	吉田	玉	志
	野	澤	錦糸	白須賀六郎	吉田	玉	彦
	ツレ	鶴	澤	寛太郎	吉田	玉	路
	琴	野	澤	錦吾	原	小文治	

釣女

(人形役割)

太郎冠者	豊	竹	陸太夫	大	名	吉田	文	哉		
大	名	竹	本	小住太夫	太	郎	冠者	吉田	玉	助
美	女	竹	本	碩太夫	美	女	桐	竹	紋	秀
醜	女	豊	竹	芳穂太夫	醜	女	桐	竹	紋	臣
	竹	澤	團	七						
	竹	澤	團	七						
	鶴	澤	清	丈						

唯子 望月太明蔵社中

観劇当日に発熱や風邪のような症状のある方、体調のすぐれないお客様は「無理なさらず、来場をお控えください。観劇時は咳エチケットの励行ならびに、マスク着用・手洗い(手指消毒)の徹底などの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。

二人三番叟

天下泰平・五穀豊穡を祈る能「翁」をもとにした「寿式三番叟」は、お祝いことに際して上演されるおめでたい演目。本作は、その後半、二人の三番叟が、袖を振って舞い、力強く足踏みをする「採ノ段」と、鈴を手に種まきのしぐさをしながら四方をめぐる「鈴ノ段」とを独立させたものです。太夫、三味線、人形いずれもが躍動感にあふれ、足遣いが踏む足拍子やシャンシャンと鳴り響く鈴の音もリズムカルで心地よい、楽しい作品です。

摂州合邦辻 合邦住家の段

安永2年(1773)、大坂の北堀江市ノ側芝居で初演された、菅専助・若竹笛躬合作の二巻の時代物。継母の呪いにより病となって四天王寺(大阪市)に捨てられ、恋人の尽力で救われる「しんとく丸」、継母の恋を拒んで家を出、自ら命を捨てる「あいこの若」、これら説経で知られた物語を題材とし、お家乗っ取りの陰謀を絡めてあります。

若くして老主君の後妻を迎えられた、もも腰元の玉手は、年の近い継子俊徳丸に恋し、突如として難病にかかった俊徳丸が家督相続を諦めて館を去るや、あとを追って家出。行方を探しあぐねて立ち寄った両親の家で、許婚の浅香姫とともに匿われていた俊徳丸を見つけると、恋心をあらわにして継りつき、邪魔な姫に暴行。また、俊徳丸の病は、姫に愛想尽かしをさせようとして、玉手が毒を盛ったことも判明。

曲がったことの大嫌いな父合邦は、非道な娘を許せず激怒し、涙ながらに刺し殺します。ところが、死を前に玉手が明かしたのは、思いも寄らない真実。恋も毒もすべては、継母として大切にすべき継子の命を救うため。

玉手が見せる邪な恋と嫉妬、合邦の怒りと悲しみ、心情の激しさに圧倒される人気演目です。

本朝廿四孝 十種香の段・奥庭狐火の段

將軍足利義晴暗殺犯は誰―武田信玄、長尾(上杉)謙信、斎藤道三、山本勘助らが絡む、近松半二ほか合作の五段の時代物で、明和3年(1766)、竹本座初演。今回は、長野県の諏訪湖畔に設定された謙信の館を舞台とする、美しさあふれる四段目をご覧ください。

武田家の重宝諏訪法性の兜を謙信が借りたまま返さず、両家は敵対。和陸のため、信玄の息子勝頼と謙信の娘八重垣姫が許婚に。しかし、その後、勝頼は切腹。が、実は生きていて、暗殺犯を見つけ出すべく、花作りの養作に姿を変え、謙信の館へ潜入しました。

絵姿を前に亡き許婚を恋慕い、泣き暮らしていた姫は、絵姿そっくりの養作にびびり、恋しさを抑えられず、養作に縋りつき、ついに勝頼その人と知って大喜びしますが、養作の正体を見破っていた謙信が、勝頼を塩尻へ行かせ、あとから討手へ。

何としても、討手より先に追いつき大切な許婚を救わなければ、とはいえ、凍った湖に船は出せず、陸路では間にあわず、諏訪明神に頼るほかはないと、姫は、諏訪法性の兜を前に一心に祈願。すると、明神のお使いである白狐の姿が…。水の上を狐より先に渡れば溺れるとのことですが、狐が守護する兜があれば大丈夫なはず。姫は、勝頼に返すべき兜を手に、湖を渡ること。

姫の胸のときめきが聞こえるような、優美な「十種香」、諏訪湖の「御神渡り」を取り込んだ「奥庭狐火」では、狐が登場、早替わりもあり、舞台は熱気に包まれます。

釣女

狂言「釣針」をもとに明治時代に作られ、のちに歌舞伎舞踊となった常磐津の作品を、義太夫に取り入れたもので、昭和11年(1936)、四ツ橋文楽座で初演。えびす信仰の中心地、西宮神社(兵庫県西宮市)を舞台とした、明るく、愉快な景事です。

西の宮の恵比須様に妻を授けてほしいと祈願した大名と太郎冠者。釣好きな恵比須様のお告げは、釣竿で妻を釣れというもの。大名が釣り上げたのは、小野小町か楊貴妃かという絶世の美女。さっそく祝言をあげ仲睦まじい二人。その様子に気も焦り、大急ぎで釣竿を手にした太郎冠者は、針先について来た女性を見て、大はしゃぎ。変わらぬ愛を誓ってから、相手の顔を見ると…。

◎字幕表記がございます。席によっては字幕が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◎出演者の急病やその他やむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。

◎開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。